

守ろう子どもの人権



人形劇を使つた「一ヶ月ミッテの練習」に励むCAP岩手のメンバー=盛岡市肴町

盛岡市の公共施設で、高橋さん(56)ら40～60代の女性5人が人形劇の練習に励む。内容は子どもが道で不審者に遭つたらどうするか。保育園児向けを想定し、逃げ方や叫び方を丁寧に、分かりやすく伝える。

子どもの人権が尊重される社会づくりを目指す「CAP 岩手」（盛岡市、高橋寿美子代表）は、県内で復興支援の無料ワークショップ（WS）を展開している。子どもの人権は大人の意識と密接に関わるため、子どもだけでなく保護者、教職員ら大人もセットで体験するのが特徴。活動は3年目に入り、関係者は多くの活用を呼び掛けている。

盛岡
CAP 岩手

復興支援へ無料研修 大人も体験、理解と啓発

城、福島の被災3県で開始。被災地で暮らすストレスにより、児童虐待やいじめの増加が危ぶまれたからだ。WSでは、規定の訓練を受けた人がいじめや性被害という具体的な危険を劇などで表現し、防止策を参加者と一緒に考え、啓発する。大人向けと子ども

向文献生類の力

さるが、子どもも向けを行つ場合は事前に関係する人が体験する必要がある。「子どもが学んでも、大人がそれを分かっていなければ日常で生かせない」(高橋さん) ためだ。

CAP岩手は今秋で設立15周年。現在は約30人が会員登録する。

11、12年度に行つた無

力から心と体を守るために
の教育プログラム。本部

子ども向けの普及が課題といふ。
高橋さんは「楽しい
雰囲気の中で、役立つ
知識が身につく。(W
Sを通じ) 子どもの問
題を身近に感じてほし
い」と活用を訴える。
問い合わせは CA
P 岩手事務局 (080
・3190・1132)
へ。

(札幌市)と日本ユニセフ協会の連携事業。

Q CAP (キヤ...
「Ch...
だ
アサルト
ドもへの暴力防止」の
略。米国で開発された
子ども自身が危つめら

は米国ニュージャージー州で、現在世界11カ国で展開。国内の団体数は約140。震災支援プロジェクトは、CAPプロジェクトのトレーニングセン